



松代大本営の遺跡を残すこの町で行う平和を旗印とした現代美術の祭典

第6回まつしろ現代美術フェスティバル

MATSUSHIRO CONTEMPORARY ART FESTIVAL VOL.6 7/1~7/16 2007

7/1~16

2007年7月1日(日)~16日(月)海の日
会場:松代藩文武学校
長野市松代町松代 205-1
開館時間 9:00~17:00 (入館は 16:30 まで)
入館料 200 円

2002 年日韓共催ワールドカップを機に始まったこの企画、隣国韓国を中心にアジアと日本の新たな未来を構築すべく今年も開催する。松代大本営を産んだこの町で、日本がかつて歩んできた道を広く世界の視点で振り返り、アジア近隣諸国を始め世界各国との大きな平和の輪を築き、人類の幸せを共に素直に語り合える、清く正しい、本当の美しい日本を探る。

The World Cup co-hosted by the Republic of Korea and Japan in 2002 triggered this plan. The plan will also be held this year to build Japan's new future with Asia focusing on its neighbor, Korea. In this city that brought Matsushiro Headquarters (Daihonei), we look back from a global perspective on how Japan has ever moved toward building a large peace ring with, not only neighboring countries in Asia, but also nations all over the world. Let's find a clean, real, and beautiful Japan where we can talk together candidly about our future.

インスタレーション作家

白川昌生 坂口寛敏 北澤一伯 仁科茂 角居康宏 柿崎順一 木村仁

映像作家

Abnormal system 花井裕一郎

パフォーマンス作家

スー・リー (オーストラリア) アラフマヤーニ (インドネシア) チェン・シーセン (香港) バルトローメ・フェランド (スペイン) ホン・オボン (韓国)・幅佳織

付帯イベント

- ◆「羽根プロジェクト」ワークショップ - 「折り紙をモチーフとした羽根のオブジェ制作」「地下壕での疑似体験を試みる」
7月1日(日)13:00~16:00 / 会場:エコール・ドまつしろ倶楽部ハウス(象山神社内)
募集人員:小学校高学年以上 先着 15名 参加費:無料
- ◆ギャラリー・トーク - 「参加アーティストによるスライドショーおよび作品解説」
7月7日(土)14:00~16:00 / 会場:文武学校内 文学所 参加費:無料
- ◆アート・パフォーマンス
7月8日(日) 13:00~16:00 / 会場:文武学校内 無料
- ◆羽根茶会: 7月8日(日) 11:00~14:00 / 会場:文武学校内(東序) お茶代 300 円
- ◆現代舞踏: リチャード・ハート 柿崎順一 後藤剛史
7月16日(月)海の日 13:00~ / 会場:文武学校内 御役所 無料

- 主催: 第6回まつしろ現代美術フェスティバル実行委員会
- 共催: Art_Plus-jp (アートプラスジェーピー) ISHIKAWA 地域文化企画室
- 後援: エコール・ド・まつしろ倶楽部 信濃毎日新聞 SBC 信越放送 TSB テレビ信州
- 協力: NPO 法人松代大本営平和祈念館 中部建設工業株式会社 長野市観光課
- 助成: 芸術文化振興基金 長野市芸術文化振興事業
- 問合せ: まつしろ現代美術フェスティバル実行委員会
026-238-4144 E-Mail: hk@hkimura.com http://mcaf.jp

マ(10・4) 図録・松代大本営 和田登編著 郷土出版社 1987 p20より



MATSUSHIRO CONTEMPORARY ART FESTIVAL



芸術文化振興基金



白川昌生 Yoshio Shirakawa
 1948年生まれ 1981年ドイツ国立デュッセルドルフ美術大学卒業
 国内外での発表多数
 2001年 越後妻有アートトリエンナーレ
 2005年 「秋山ぶらっとウォーム計画」 澁川市美術館「アルス・ノーヴァ、現代美術と工芸のはざま」東京
 都現代美術館「場所、群馬展」高崎少林山「記憶の再生」旧麻屋デパート
 メッセージ：今後も群馬にある歴史的名場所（有名な無名問わず）をターゲットに活動を継続



スー・リー (オーストラリア) Sue Lee
 1958年 シドニー生
 オーストラリア サンシヤイン・コースト大学にてアート&デザインを学ぶ
 オーストラリア ケーンズランドCSTI卒業 彫刻専攻
 芸術およびパフォーマンス・アートの通書投稿
 オーストラリアと韓国を中心にパフォーマンスを発表する戒律主義的アーティスト
 『芸術は、認識を引き起こし、バリアを溶かし、人々をまとめるための強力な道具である。』



坂口寛敏 Hirotochi Sakaguchi
 1949年生 福岡県生まれ 1975年 東京芸術大学大学院油画修了
 1983年 ミュンヘン美術アカデミー卒業 現在 東京芸術大学美術学部絵画科教授
 1999年 『現代日本彫刻展』宇布市野外彫刻館、山口（東京国立近代美術館賞受賞）
 2000年 越後妻有アートトリエンナーレ 新潟 2003年 個展、ギャラリーG A N、東京
 2006年 『記憶・美術』小海町高原美術館、小海町、長野 2006年 個展 表参道画廊、東京
 2006年 個展 ギャラリーとわる、福岡
 2007年 『坂口寛敏展』澁川市美術館・巻原巨守彫刻美術館、群馬
 メッセージ：人は自立して生きるために環境から学び、そこから創造力を得て再びそれを環境へと還元する



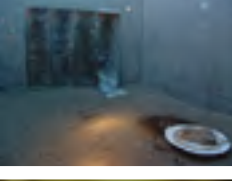
アラフマヤニ (インドネシア) Arahmaiani
 1961年バンドン生まれ。バンドン工科大学で美術を学び、その後オーストラリア、オランダへ留学。
 女性の地位やジェンダーの問題、宗教、社会問題などに取り組むインドネシアを代表するパフォーマ
 ンス・アーティスト。パフォーマンス・アートの身体表現性と観客との間の直接的なコミュニケーション
 を愛する。
 世界各国各地域からの招待を受け多忙な傍ら、次世代を育てるアートプログラムも継続中。
 2004年 Art_Plus.jpの招きで長野アート万博、とびアート・プロジェクトに参加。



北澤一伯 Kazumori Kitazawa
 1949年生れ。1971年より活動。
 1994年以降、廃屋と旧家の内部を『心の内部』に見立てて美術空間に変える『丘』をめぐる『連作』を発表。
 2003年からは、土地係争を題材にした『刺客の風景』連作と、自分自身の内面世界を布置する『セルジ・ペイ
 ンクシリーズNo1-13』がある。2006年には、土地の記憶の再構築のための試論『固有時と固有事』と抗争の
 痕跡を語る『神史（はしし）』を制作。
 コメント：私は、私の表現を、美術における身体と精神と物質の関わりが生み出す『詩』と考えてきた。それは
 私が死の側に立つことを拒否し、『いのち』を守り、さらに勇気づけるもの。すべての傷が快癒へと向かわせる何か
 いわくいがいたものに触れる術だ。『拡大された彫刻論』。



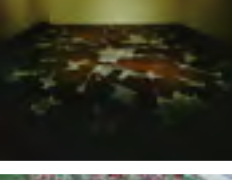
チェン・シーセン (中国/香港) 陳式森, Chen Si-Sen
 1963年北京生まれ。その後、廣州移住。1986年廣州でパフォーマンス活動を開始。『南方藝術家サロン』
 参加。1987年9月渡日。1989年天安門事件後、民主化運動参加。その後、作品のテーマは変化し、戦争、
 虐殺、天安門事件を表現し続ける。1997年よりNIPAF参加。『新華字典』『朝花夕拾』『偽自由書』『山
 海経』など連作を発表。2000年6月4日香港・マカオで『偽自由書・一種姿勢』、2001年8月15日
 東京靖国神社で『偽自由書・8.15の靖国』を発表。
 2002年、中華人民共和國に帰国。現在香港在住。
 香港で毎年パフォーマンス・アートのイベントを企画運営。



仁科茂 Shigeru Nishina
 1988年 (二人展) スパイラルガーデン/青山/東京
 1990年 (作法の遊戯展) 水戸芸術館/水戸/茨城
 1992年 (他者との遭遇展) カッセ/ドイツ
 1994年 (人間潮流展) 釜山/韓国
 2002年 (東日本・彫刻展) 釜山/韓国
 2003年 (Peat Polisan) エメン/オランダ
 2003年 『記憶・美術』小海町高原美術館/小海町/長野
 作品写真タイトル：『中空の庭ー松澤育に捧ぐ』小海町高原美術館



バルトロメ・フェランド (スペイン) Bartolomé Ferrando
 1951年 バレンシア生まれ。パフォーマンスであり視覚詩人。
 バレンシア大学でパフォーマンスとインターメディアアートを教える。雑誌 Texto Poético の創刊者。
 ヨーロッパ、カナダ、アメリカ、南米、アジアの芸術祭に参加しパフォーマンスを行う。スペイン、フ
 ランス、イタリアの様々な都市で視覚詩具象詩を発表。
 音楽、詩そしてアクション・アートの中間的な様式で実践的に実践する集団、『Flatus Vocis Trio』『Taller
 de MúsicaMundana』『Rojo』を作った。
 エッセイ出版、インターメディアによる MC、LP や CD、パフォーマンスのビデオ、DVD を制作。
 photographed by Anat Pick



角居康宏 Yasuhiro Sumii
 1968年生 1993年金沢美術工芸大学卒業
 1995年天理ビエンナーレにて作品発表。以後個展グループ展を中心に活動。
 主な個展:2000、2002年コパヤシ画廊 2003年ギャラリー深志 2004、2006年ギャラリー川船 2007年ギヤ
 ラリー82 アルミを溶解し地球の軌跡に放り込む。
 『地球を一つの生命体とする考え方がありますが、そうだとするならわれわれも、他の生物も、そして無機物
 とされているものもすべて地球の細胞であり血液であり、そのことにおいては、すべて同格なのではないかと
 思っています。』
 写真タイトル「生命」



ホン・オボン (韓国) Hong o Bong
 ホンギョク大学 (ソウル) 卒業 韓国におけるパフォーマンスアーティストとして草創期より活躍。
 世界各国での芸術祭に招かれる。
 富山市国際パフォーマンスアートフェスティバル、
 金沢市国際パフォーマンスアートフェスティバル [KIPAF] ディレクター。
 まつしる現代美術フェスティバルには初回から毎年参加。
 現在では当フェスティバルに無くてもはならない存在となっている。



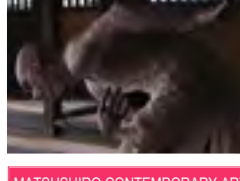
柿崎順一 Junichi Kakizaki
 1971年より花や植物など自然を題材に、インスタレーション、パフォーマンス、オブジェ、立体、彫刻、写真、
 舞台美術などの作品を国内外にて発表。リチャード・ハートの舞台美術を担当する
 最近の主な個展 Recent Solo Exhibition
 2004年 『Rebel Installation』ヴィクトリア国立美術館 NGV・メルボルン市
 2005年 『Rebel Installation』ベルリ中央劇場 前庭・ベルリン市 / 『Rebel Installation』善光寺 仁王門・長野市
 / 『CRADLE』ウブサラ公立図書館 エキシビジョンスペース・ウブサラ市 / 『CRADLE』長谷寺 康慶・長野市
 2007年 『CRADLE』ソニール SONY ショールーム・東京都 / 『NEW LIFE』東京スウェーデン大使館・東京都
 / ニューヨークスウェーデン総領事館・ニューヨーク市



幅住織 Kaori Haba
 1959年生 北海道文学部史学科卒業
 1999年よりパフォーマンス・アートを開始 国内外で作品を発表
 アジア近現代史をテーマに自らの歴史観やその背景を問う『伝える人 (Transmitter)』
 社会や個人の意識無意識下にある『境界』をテーマとする『異物 (Foreign object)』の連作など
 現代アートプロジェクトを推進する活動集団 Art_Plus.jp (アートプラスジャービー) 代表
 Art_Plus.jp Performance Art Project を毎年主宰



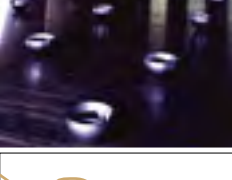
アブノーマル システム Abnormal system
 2000年 錦江国際自然美術館 (韓国/公州)
 2001年よりライブインスタレーション『Happy birthday』言葉の牢獄No.2を発表。サウンドインスタレーシ
 ョンやインスタレーションを発表する。
 2004年 インチョンメディアアートフェスティバル (韓国インチョン市) パフォーマンスアートにて Go ahead!
 を発表。とびプロジェクト、ながのアートナビ、ながのアート万博参加



リチャード・ハート Richard Hart (現代舞踏)
 1981年来日 1987 - 1989年岩名雅紀より舞踏を学ぶ
 1997年より長野に居住 1998年紅葉劇場を開く
 1999年 - 2001年紅葉劇場舞踏公演、演出、振り付け
 2002年本格的ソロ活動開始
 2000.03.06年スウェーデン舞踏祭に参加
 現代舞踏とは、身体の実感を原点に実験的な即興振りとし、肉体は表現の手段ではなく、表現そのもの
 と捉える。



花井裕一郎 Yuichiro Hanai
 1962年福岡生まれ
 テレビディレクターからスタート
 1996-1999年 ラテン音楽ドキュメンタリービデオシリーズ監督
 2000年 東京から小布施町に拠点を移し、本来の人間の姿、生き方を模索
 2001-2005年 ファッションデザイナー高原亨 ROEN (ROEN MOVIES) 参加
 2004年 ドキュメンタリー『カカオロード ~歴史に刻まれた生命の糧~』監督
 『ないもの』=『存在そのものは目に見ることが出来ないが、そこにはエネルギーが存在する』こと
 を体感しながら創作を目指す。



木村 仁 Hitoshi Kimura
 1948年生 福岡県生まれ
 1973年 東京芸術大学大学院修了
 1986 - 1987年 文部省在外研究員 (アメリカ)
 現在 信州大学教授
 1975年銀座ギン画廊での個展を始め国内外で発表を行う
 1999年より折り紙の羽根をモチーフにした『羽根プロジェクト』を開始
 2002年日韓共催ワールドカップを機に、松代大本营をテーマにした現代美術の祭典を始める
 メッセージ：現代美術の中に萌芽する社会性を素直な感覚で育てていきたい

